

コンビニエンスストア 6割強の人が週1回以上利用

「コンビニエンスストアは、私たちの生活の中でより身近な存在となっています。そこで、「コンビニエンスストアの利用状況を聞いてみました。」コンビニエンスストアの利用頻度を聞いたところ、「週1回以上利用する人は、6割強でした(図1)。「コンビニエンスストアを利用する」と答えた人に、利用時間を聞くこと、夜間(午後7時~午前0時)の利用が約4割でした(図2)。

図1 コンビニエンスストアの利用頻度

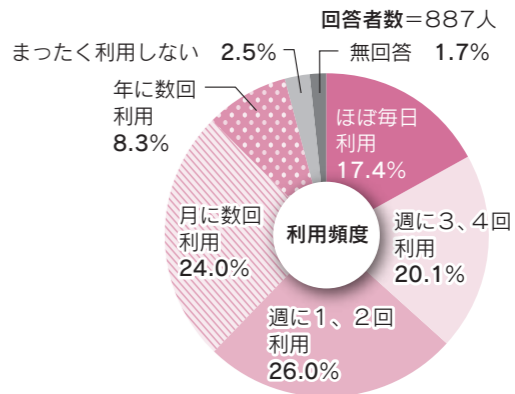
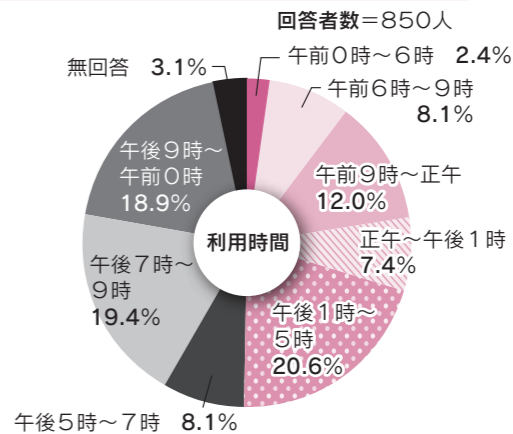


図2 コンビニエンスストアの利用時間



地元の個人商店 豊富な品揃えに期待

「商業統計調査」をみると、近年中野区内の商店数は減少傾向にあります。地元の個人商店の利用頻度について聞いたところ、「週1回以上利用」する人は、5割強でした(図5)。

地元の個人商店への要望は、「豊富な品揃えが最も高く、続いて「品質の信頼性」「割引・特典サービス」の順になりました(図6)。



図5 地元の個人商店の利用頻度

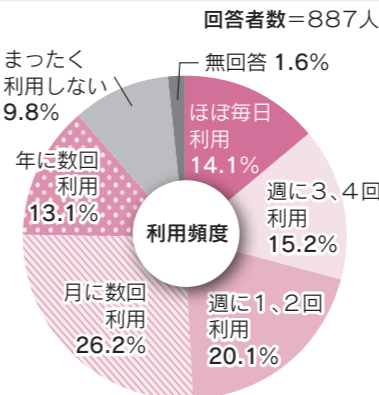


図6 地元の個人商店に望むこと

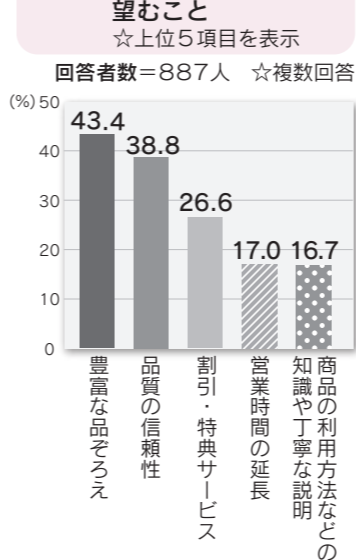


図3 コンビニエンスストアでよく買うもの

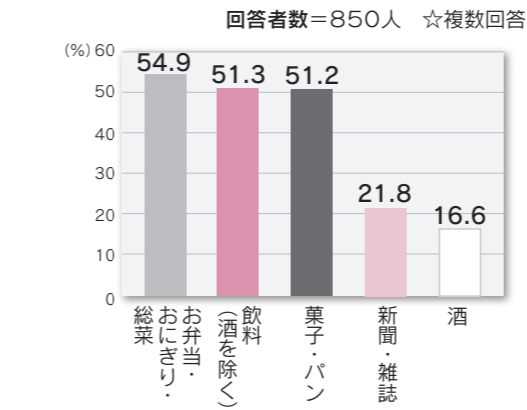
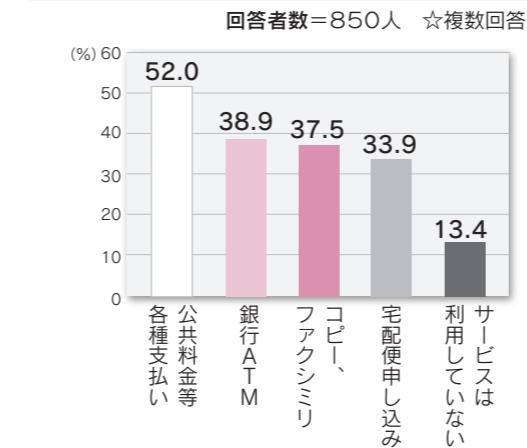


図4 コンビニエンスストアで利用するサービス

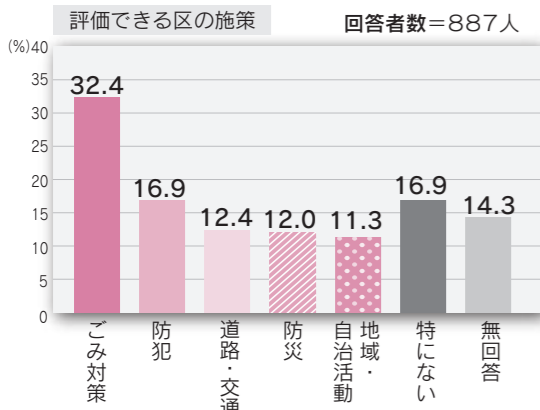


区の施策についての

みなさんの声

評価できる区の施策 「ごみ対策」が 2年連続第1位

区が力を入れていると評価できる施策を3つ以内で聞きました。昨年に続き「ごみ対策」が約3割で最多でした。「防犯」「防災」「地域・自治活動」も昨年から引き続き上位5項目に入っています。今年も「道路・交通」が上位5項目に入りました。



中野区のごみ対策

区は、「ごみゼロ都市なかの」を目指し、ごみの減量、資源の再利用に向けた取り組みを行っています。

資源の再利用を進めるために

びん・缶の分別回収を区内全域で展開したことを皮切りに、23区で初めてプラスチック製容器包装やペットボトルの分別回収を開始するなど、資源の回収を進めています。

古紙回収については、行政の回収を廃止し、町会・自治会などの地域の力による集団回収へ移行しました。その結果、回収量が増え、区の事業経費は節減されました。

ごみや資源の適正な処理のために

みなさんのご家庭や事業所から出されたごみを適正に処理するため、ごみの収集・運搬を着実にを行い、ごみを出す際の排出ルールの普及に努めています。

また、ごみや資源の分け方・出し方について、集積所周辺や小規模住宅への周知、ごみ減量の出前講座や説明会などの広報活動を、区民・事業者に向けて行っています。

ごみの減量、資源の再利用に向けた取り組みなど、詳しくは「ごみ減量担当課」をご覧ください。

今後力を入れてほしいこと 上位の3施策に変動なし

区の施策で、今後特に力を入れてほしいものを、1位から3位まで順位をつけてもらいました。

合計では、今回は1位に「高齢者福祉」、2位に「防災」、3位に「防犯」がわずかな差で並びました。

過去5年間の要望の移り変わりをみると、2位~4位だった「高齢者福祉」が今回初めて1位となりました。常に1位か2位にあげられていた「防犯」が3位となりました。また、5位に初めて「道路・交通」が入りました。

防災のアドバイス

区の施策のなかで、みなさんからの要望が毎年高い「防災」。災害での被害を少なくするには、区の施策に加え、みなさん自身の行動も大切です。今回の意識調査で、ご自身の備えについて聞いたところ、「備えていない」と回答した人が15%を超えていました。



「災害への備え」と思うと特別な物と考えがちですが、いつも買っている物の中にも、災害時に役立つ日用品がたくさんあります。レトルト食品やあめ、飲料水など、賞味期限が長く、長期保存ができる食品類は立派な非常食です。買い物に行った時に家族の年齢構成や好みなどを考えて、多めに買っておきましょう。

災害への備えについての相談は、地域防災担当課

調査結果の公表

今回の区民意識調査では、ここで紹介した項目のほかに、防災への取り組みや区の窓口対応なども聞いています。

調査の全内容は、3月19日から、区ホームページ、地域センター、図書館または区役所4階統計調査担当でご覧いただけます。